一身田の新聞
発行
一身田地区
社会福祉協議会
編集者
岡本博和

高田本山の如来堂と御影堂が国宝指定、本山の国宝は4件
地域懇談会、街づくりのスピードアップに期待
投稿、今回も盛りたくさん。

高田本山の如来堂と御影堂が国宝に

「世界的に価値が高く比べることができないない国民の宝」と国が指定

平成29年11月28日官報号外第256号文部科学省告示第176号において高田本山の如来堂と御影堂が国宝に指定された。如来堂と御影堂は昭和36（1961）年に国の重要文化財に登録されており、10月20日には国の文化審議会が両堂を国宝に指定するように答申していた。

高田本山は「高田本山だより」を号外で発行し喜びを表現した。この中で常磐井慈祥法主は「歓喜極まりありません。数年前に西本願寺の両堂が国宝指定になったので、専修寺も期待していた」と話された。また、宗務総長の安藤光淵さん（82）は、「如来堂は昭和の大修理で8年の歳月と15億円をかけて、御影堂は平成の大修理で8年の歳月と30億円の費用をかけて修理をした。これは、檀信徒の援助によってこの威容が保たれてきた。この指定を心から喜びたい」と述べた。

12月15日、高田幼稚園児やボランテイアガイド、地元民報道各社が見守る中、高田本山の法主によって御影堂、如来堂の重要文化財から国宝の看板が替えられた。

国宝は国が指定した重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いもので他に比較する物がない国民の宝で重要文化財は日本に所在する文化財のうち文化的、学術的に重要なもので国が指定する。国宝は重要文化財の1割弱しかない。三重県には6件の国宝があり、その内4件が高田本山専修寺所有である。また、親鸞聖人直筆の文書の4割強を所有しており、その内の2件が国宝である。

12月1日、国宝となった御影堂の仏具をお磨きする檀信徒の皆さん。

高田本山では1月9日～16日まで『お七夜さん』が始まる。この期間中の9日には、三重大学大学院教授菅原洋一先生の国宝記念特別講演を、13日には「お七夜新成人のつどい」を開催する。「国宝の御影堂で新成人を迎えませんか」と呼びかけている。

自治体や地元団体 今後の取り組み

「暗い、世知辛いニュースばかりのこの時期にこの朗報は嬉しい。自治会も他の団体とも協力して祝賀ムードを高めたい」と望木連合会長は話される。

また、津市長は「津市としても何らかのことはしたい」と話され、商工労政課を中心に商工会と協議に入る。本山関係団体や地元有志との話し合いも加速されている。

『お七夜さんに想うこと』

松阪市・　義明寺住職　高藤英光

今年も『お七夜さん』の季節になりました。皆さんご承知のように、年間の本山法会の中で最も重い法会で、親鸞聖人の命日を中心に毎年執り行われ、七昼夜にわたって勤められることから『お七夜さん』の名で親しまれ知られています。毎年、約十万人余の人で賑わい、門前には多くの露店も並びます。今年も、1月19日～16日まで行われます。

この『お七夜さん』について高田幼稚園の子どもたちに話したことの一部をもとに、『お七夜さん』について紹介したいと思います。

「あけましておめでとう」という言葉には、去年一年間いろいろなことがあったけど、また会えてよかったねという思いが込められています。みんながまた会えたということは、みんな一人一人に命があるからなんです。そして、この命はお父さんやお母さんからもらった大切なものなんです。みんなの命は、ロボットやおもちゃのように作ったものではありません。作ったものは壊れても直せるけど、命をもらって生まれてきた生き物は一度死んでしまうと決して元には戻せないんです。そんな大切な命をお父さんお母さんからもらって新しい年を迎えることができた。もちろん、お父さんやお母さんも、そのお父さん、お母さんから命をもらったわけです。

そんな大切な命をもらえて「よかったね」と教えてくれたのが『親鸞聖人』です。『お七夜さん』というのは、「大切な命をもらってよかったね」と言ってくれる『親鸞聖人』に「ありがとう」というお勤めをすることなんです。

こんな話を幼稚園児にしてきました。

「損じゃ得じゃ、楽じゃ苦じゃ、何じゃかんじゃで末は無茶苦茶」という言葉があります。今の世の中は、損得を優先させてはいないでしょうか。それをだめだと言っているのではありませんが、私たちにはもう一つ大切なものがあるはずです。

私たちにとって、本当の幸せ、豊かな生活というのはなんでしょうか。『お七夜さん』で、その答えが見つかるかもしれません。

「ドイツ・スポーツ少年団」が一身田へ

一身田スポーツ少年団　団長　小澤康孝

11月6日(月)に「ドイツ・スポーツユーゲント」の指導者10名が一身田寺内町を訪れました。一行は日本とドイツのスポーツ少年団指導者の交流を目的として10月29日に来日し、11月4～7日の3泊4日の日程で津市スポーツ少年団の家庭にホームステイしました。24～55歳の男性5名、女性5名で、指導種目は柔道、空手、ヨガ、水泳、体操、陸上、バドミントン、バスケットボール、ハンドボール、スキーと多岐にわたっています。

期間中、前葉津市長への表敬訪問、津市スポーツ少年団指導者との意見交換会、ウェルカムパーティー、一身田寺内町訪問、吉田沙保里杯少年少女レスリング大会見学、柔道・剣道の武道体験、津ヨットハーバー見学・モーターボート乗船、三重県立聾学校部活動見学、県立博物館見学を行いました。

一身田寺内町訪問では、まず最初に専修寺の御影堂と如来堂を参拝し、国宝指定への答申が出された建造物の壮大さと内観の尊厳さにドイツ指導者の皆さんも目を輝かせていました。次にほっとガイド3名の皆さんに案内していただき、仲の町通りを中心に寺内町を散策しました。細い路地を通って寺内町の館へも立ち寄りました。最後に臼井織布さんを訪問し、社長から伊勢木綿の説明や工場見学をさせてもらいました。

明治時代の中頃にトヨタグループの創始者である豊田佐吉から購入した織機が今も元気に動いていることに皆さん驚いていました。ドイツ指導者から臼井社長への質問も次から次へと飛び出し、予定時間を30分もオーバーするほどの盛況でした。伊勢木綿のハンカチを津市スポーツ少年団からの記念品としてドイツ指導者の皆さんへ贈呈しました。

一行は翌7日に津駅から近鉄で名古屋へ出発し、東京・羽田空港からルフトハンザ・ドイツ航空で帰国しました。

最後に寺内町訪問でお世話になった皆様には、ドイツおよび津市のスポーツ少年団の指導者が貴重で有意義な体験をさせていただいたことに心より御礼申し上げます。

寺内町散策のたのしみをもう一つ

寺内町観光振興懇話会　中西万喜夫

専修寺両堂の国宝の指定に伴い、寺内町を訪れる方々が増える事でしょう。そこで、私たちの町を訪れる方々に楽しんでいただけるような「おもてなし」に共に取り組みませんか。

店頭に掲げられた木札

そのおもてなしとは、写真のように経文の文言あるいは今日の一言集の中の好きな言葉を書いた木札を玄関先等に掲示し、散策をする方々にその木札を読んでいただきながら町歩きを楽しんでいただくというものです。ご賛同いただければ設置に向け本会員が相談に応じます。回覧等でお知らせしますので、ぜひこの機会にご検討いただければ幸甚です。

新春恒例 凧揚げ大会

2月11日（日）

障がい者センターグランド

恒例の新春凧揚げ大会が行われる。例年300人以上の参加者があり、冬の風物詩となっている。「ぜひ、自前の凧を大空いっぱいに揚げませんか！」と一身田地区社協は呼びかけている。

昨年の凧揚げ大会の様子

みんなの便り

一小、どんぐりフェスタを開催

つながる～おもい・なかま・いっしんでん～

日頃の御礼に地域の方を招待

一身田小学校では、11日(火)に「どんぐりフェスタ」を開催しました。この集会は、「つながる～おもい・なかま・いっしんでん～」をテーマに、日頃からお世話になっている方々に感謝の気持ちを伝えたり、各学年で取り組んだ人権学習の成果を発表したりすることを、主な内容としています。

前半は、日頃からお世話になっている、一身田地区民生委員・児童委員様、一身田フラワーボランティア様、安全パトロールボランティア様、一身田寺内町ほっとガイド会様、MOA文化芸術財団様、図書館ボランティア様、ベルマークボランティア様、クラブ(生け花、地域探検、折り紙、卓球)の外部指導者様をご招待し、感謝の思いを伝えるとともにお礼のお手紙をお渡しました。

後半は、各学年が、学習の成果を呼びかけや歌で元気よく発表しました。

子どもたちにとっては、自分たちの学校生活が、たくさんの皆さんのご支援によって成り立っていることを感じ取る有意義な集会となりました。(一小校長　川本伸也)

文化祭へのご協力ありがとうございました

一身田公民館長　米川　武宏

今年の文化祭は、二つの台風が迫る中での開催となりましたが、例年と変わらずたくさんの人に来ていただくことができました。

今年も作品展・発表会とも見応えのある内容であったと多くの称賛をいただきました。

お楽しみ抽選会では一喜一憂する会場の皆さんの姿に充実感を得ることができました。352点の作品展示、11グループによる学習発表、509個の提供を受けた日用品バザー、533名の方の来場など、数字の上でも盛会であったと感じました。講座生の皆さんのご努力、そして地域の皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。

また、公民館の建替工事もいよいよ来年度から着工です。二年後には建物や駐車場を整備し新しい公民館が完成しますが、今まで同様に講座生の皆さん、地域の皆さんとともに歩む公民館でありたいと思います。

幸せな一日の余韻

高山純弥・成美

私たちは、先日の『一身田しあわせ和婚』に参加をさせていただき、結婚をした二人です。

一身田商工振興会の皆様を始め、関係者の皆様には大変お世話になり、また、私たちの門出を一身田地区の多くの皆さんに祝っていただき、本当にありがとうございました。

念願であった十二単に袖を通すこともでき、幸せに包まれた一身田での結婚式は私たちにとって、とてもいい思い出になりました。この幸せな一日の余韻が今も残っています。

私たちは、これから初心を忘れずに毎年高田本山にお参りすることを決めました。重ね重ね本当にありがとうございました。家族もとても喜んでくれました。

最後になりましたが、私たちが一身田地区の町おこしに少しでも協力できていれば幸いです。これからもずっと「しあわせ和婚」が続いていくことを心から願っております。

地域懇談会

街づくりの「見える化」「スピードアップ」に期待

11月28日一身田公民館で5回目(津市全体150回)となる地域懇談会が開かれた。

この地域懇談会は一身田地区の困りごと、要望、課題、現況等を直接市長と話し合えることで、いわゆる「地域の見える化」、事業のスピードアップに繋がっている。

特に声が形になったものとして、「カワウ追い出し対策」、「防災備品の水没対策」、「民生児童委員の活動」等があり、民生児童委員の紹介記事は「広報つ」でシリーズ化されている。

自治会からは「一身田の耐震診断の現状」、商工振興会からは「市長による一身田寺内町観光地化宣言」の要望があった。耐震診断の現状について、後日、市役所都市計画部から「耐震診断は無料で行うことができ、補強に関することはいろいろな補助金があるので利用して欲しい」との連絡があった。

一身田地区での耐震診断状況は資料の通り。

年度	診断数	工事実施数数
H22	8	2
H23	15	0
H24	7	3
H25	15	1
H26	38	5
H27	3	4
H28	16	1
H29	8	0
計	110件	16件

◆

商工振興会長の中川さんは、津市は寺内町を観光地化宣言をし、空き店舗や空き家の調査、街づくりに対して地域住民の意識調査、さらに専門家の派遣要請を要望した。

防災講演会、防災訓練に参加を

一身田地区青少年育成協議会長　岡野勇治

本協議会では、昨年11月29日に一身田小学校で『子どもの命を守る講演会・懇談会』を、十二月九日には一身田中学校で『防災フラワー大作戦』を関係団体とともに共催し、防災防犯にむけた啓発活動を行いました。地域の皆様にはご多忙の中、多数ご参加いただき、ありがとうございました。

さて、来る南海トラフ巨大地震に遭遇すれば、大人子どもを問わず生死に関わる一切の判断が求められます。また、交通事故、いじめ、虐待、児童ポルノなど子どもが関わる悪質な事案も数多く発生し、将来を担う子どもたちの命をどう守っていくのかが問われています。こうした厳しい社会情勢の中で、将来起こるかもしれない危機危難の中で、危機管理意識や危機管理能力を遺憾なく発揮し、被害を最小限に留めることが必要です。

とりわけこうした危機危難の中で求められる私たちの意識や能力を日常的に醸成していこうとする努力が、『すべての人が安全で安心して暮らせる一身田』『災害に強く、災害弱者に優しい一身田』を実現していくものと思います。こうした一身田を実現するためにも本年も本協議会の取り組みに皆様のご参加をお待ちしております。

写真展「一身田散歩」を開催

一身田豊野　八田　到

ふと見た「伊勢木綿」の記事を見て飛びこんだのに、心よく撮影を許可いただきました。これがもとで一身田を歩いてみてみようと思いたちました。

仲の町の商店を中心に、お店の邪魔をしながらお話を伺うことができました。

一身田の魅力を充分に感じてはいますが、どれだけ伝えることができたかは疑問です。

1月9日～31日まで寺内町の館

「歳旦祭」

（さいたんさい）

御田神社　宮司　脇田　匡

師走を迎え皆様いかがお過ごしでしょうか。寒風に落ち葉が舞う一御田神社では年越しのご参拝や新春の初詣をお迎えする準備が粛々と進んでおります。お正月の朝、専修寺や神社を訪ねての年明けのお参りが恒例となっているご家庭は少なくないと思います。

元来「初詣」とはどの様な行事だったのでしょうか。「初詣」は、大晦日の夜から元日の朝まで夜通し神社で過ごして一年の無事を願う「年籠り」が起源だと言われています。その後、大晦日に家を出て除夜の鐘を聴きながら年明けを迎え、元日にお参りを済ませて自宅に帰る、「二日参り」へと変わって行きました。

今年も神社では大晦日の日没から神社境内で絵馬提灯が皆様の想いと共に幻想的に照らし出される予定です。また、年明けの午前一時からは一年の平和と皆様の招福を願う歳旦祭を行います。初詣の際にはご奉納頂いた数々の美しい提灯をご覧頂くと共に歳旦祭へのご参列を心よりお待ちしております。(12月吉日)

オピニオン

11月28日に行われた地域懇談会で参加者からの意見・提言です。その一部を紹介します。

環濠にきれいな水を

若林泰弘

現在、環濠は毛無川からの水が入らなくなり汚いままです。昭和47年の水害の後、毛無川の流量を増やすために川底を下げたことによりそれまで流入していた水が流入しなくなったからです。

では、きれいな水を流す方法はないのでしょうか。例えば、毛無川の上流で取水し、パイプを堤防に沿わせて環濠まで引水するという方法は可能ではないでしょうか。また、紀勢線の線路の上流から下流にかけてはいくつもの水路が現存しています。そうした水路を活用すれば環濠にきれいな水を取り込むことは可能ではないのでしょうか。

いずれにしましても、きれいな水が流れる環濠の実現は、私たちの願いです。ぜひ、高田本山専修寺に国宝指定という朗報が届いた今こそ、津市の関係部局の皆様の専門的な検討を期待します。

◆

聖火リレー是非一身田に！

2020年7月24日から始まる東京オリンピック。1964年9月30日滋賀県から関～芸濃を通り県庁に聖火が運ばれた。聖火リレーに関しては、オリンピック組織委員会が検討中であるため県庁も津市も内実はわかりませんとの答え。

今をときめく寺内町に聖火リレーを。(岡本)